

## 実践事例

(防災) 矢作中学校 2年

# 防災について考えよう

9月～2月(17時間)

## 1 ねらい

6月に行われた職場体験では、矢作学区の様々な事業所の方にお世話になった。生徒たちは、働くことの大変さややりがいとともに、地域の方の温かさにも触れることができた。職場体験を終えた生徒の感想には、「自分の学区の方にお世話になったので、これからは自分が地域の人に役に立てるようにしたい。」とあり、お世話になった地域の方々の役に立ちたいという気持ちが芽生えた。そこで、9月からの総合的な学習のテーマを「地域・人のために役立つことをしよう」と設定し、本校が去年より行っている講座制にて学年全体で取り組んだ。

10の講座を設定し、生徒の興味関心に合わせて選択できるようにした。中でも「防災について考えよう」では、いつ起こるか分からない天災に備える防災のあり方について学び、自分たちが住む矢作学区の災害について掘り下げていこうと考えた。地域のことを学ぶことで、防災を自分事と捉え、「自分ならどうするか」という視点で行動につなげられるように実践を行った。

## 2 実践の概要

### ①活動計画

| 学習課題                 | 内容   |
|----------------------|--|
| 実践① 災害とはどういうものだろう    | 災害が起こるとどんな被害を受けるのかなど、以前の事例を調べる。            |
| 実践② 防災とは何だろう         | 災害への対応策を考え、防災のあり方について理解する。                 |
| 実践③ 防災倉庫には何があるのだろう   | 防災グッズと共に、各学校にある防災倉庫を見学し、防災倉庫の意義・活用の仕方を考える。 |
| 実践④ もしも、矢作に災害が起こったら… | 土地が低い矢作地区。この地に起こりうる災害を調べ、どう対応するべきかを考える。    |
| 実践⑤ 防災についてまとめよう      | これまで学習したことを、グループごとにまとめる。                   |

### 【実践① 災害とはどういうものだろう】

講座の初めに、この講座を選んだ理由や何を知りたいかを聞いた。

- ・ここ数年で日本では大地震や川の氾濫、火山の噴火などたくさんの自然災害が起こったし、これから来ると言われる南海トラフ地震や、矢作川が氾濫した場合にどうしたら良いか知りたいからです。
- ・地震や災害があった時の、もしもの時の備えというものを、ここで知っておけば、そういう事態になったときにすぐに対応できるようにしておきたいから。

生徒たちの思いを聞き、防災への意識が高まっていることが分かった。しかし、ニュースで見聞きしている災害について、何をどうすればよいのかは分からないままであることが分かった。

これから具体的な防災を知っていく上で、まず、「災害とはどういうものなのか」と問いかけた。「人や建物などに被害をおよぼすもの」「予知できないもの」「人間の手では止められないもの」などという意見があがった。そして、知っている災害を出し合ったり、過去の事例を調べたりする活動を行った。生徒の感想には「災害について、こんなにじっくり考えたことがなかったので、災害にはたくさんの種類があることが分かってよかったです。そして、その災害にあっ

たとき、どんなことを優先しなければいけないのかを考えていきたいです。」「もし、災害が起きてしまったら時に自分の身をどう守っていくのか、どのように周りの人の力になればいいのか、この学習を通して学んでいきたいです。」などがあり、防災について自らの課題をもって学ぼうとする意欲がうかがえた。

【実践③ 防災倉庫には何があるのだろう】

実践②で防災について目を向けた後、学校にある防災倉庫を見学した。防災倉庫には何があるのか、予想をさせた上で見学に行った。生徒の予想以上に多くのものがあり、驚く様子があった。特に乳幼児用品があることに驚くとともに、多くの人のことが考えられているということを知り、学びとった。



【実践④ もしも、矢作に災害が起こったら…】

自校の防災倉庫を見学し、「矢作学区に災害が起きたらどうするのか」という疑問が浮かび上がった。そこで、市役所防災危機管理課の穴井様をお招きして矢作学区に災害が起きたときの対処法を学ぶ機会を設けた。

まず、矢作地区の土地が低いことから、水害による危険性が一番高いことを学んだ。そこで、防災マップを用いて、小中河川と矢作川が氾濫した場合の被害を教えていただいた。生徒は、自分の自宅を探し、どんな対応をすべきかを調べた。

| 防災マップ  | 防災マップから自分がすべき対応   |      |     |  |  |
|--|---|------|-----|--|--|
|  | <p>②自宅滞在・避難時に気をつけることを考えよう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="767 1122 1002 1160">自宅滞在</th> <th data-bbox="1177 1122 1246 1160">避難時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="608 1167 1002 1480"> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドアの窓、シャッターなどをしっかりと閉めて水の中に入れないようにする。</li> <li>外出しない</li> <li>絶対に必要なものなどから、高い所に上げる。</li> <li>犬もいっしょに高い所に上げておく。</li> <li>すぐに避難できるようにする。</li> <li>情報もしっかりとほかにしてかく。</li> </ul> </td> <td data-bbox="1007 1167 1428 1480"> <ul style="list-style-type: none"> <li>荷物を最小におさえる。</li> <li>長そで、長ズボン、くつ下、スニーカーなどが防犯できる服装にする。</li> <li>入口や窓の中に入れて連れていく。</li> <li>水がある場合は水がたまりやすい場所、流水のある場所に行かない。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> | 自宅滞在 | 避難時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ドアの窓、シャッターなどをしっかりと閉めて水の中に入れないようにする。</li> <li>外出しない</li> <li>絶対に必要なものなどから、高い所に上げる。</li> <li>犬もいっしょに高い所に上げておく。</li> <li>すぐに避難できるようにする。</li> <li>情報もしっかりとほかにしてかく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>荷物を最小におさえる。</li> <li>長そで、長ズボン、くつ下、スニーカーなどが防犯できる服装にする。</li> <li>入口や窓の中に入れて連れていく。</li> <li>水がある場合は水がたまりやすい場所、流水のある場所に行かない。</li> </ul> |
| 自宅滞在   | 避難時   |      |     |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ドアの窓、シャッターなどをしっかりと閉めて水の中に入れないようにする。</li> <li>外出しない</li> <li>絶対に必要なものなどから、高い所に上げる。</li> <li>犬もいっしょに高い所に上げておく。</li> <li>すぐに避難できるようにする。</li> <li>情報もしっかりとほかにしてかく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>荷物を最小におさえる。</li> <li>長そで、長ズボン、くつ下、スニーカーなどが防犯できる服装にする。</li> <li>入口や窓の中に入れて連れていく。</li> <li>水がある場合は水がたまりやすい場所、流水のある場所に行かない。</li> </ul>  |      |     |  |  |

生徒からは「自分の住んでいるところがこんなに危険だと思わなかった。」「自分が思っていた以上に家の中でも外でも危険が多いことが分かりました。」「同じ矢作学区でも、避難の仕方が違うことが分かった。やっぱり自分の命は自分自身で守らなければならないことを実感しました。」などの感想があり、災害に対する対応を自分に置き換えて考えることができた。

3 実践を振り返って

近年必ず来ると言われている南海トラフ地震は、生徒にとっても関心のあることからである。今回は、ニュースで多く見聞きする災害についての講座を開いた。講座が始まる直前に鬼怒川が決壊した映像を見ていた生徒たちは、同程度の規模の矢作川が氾濫・決壊した場合について、危機感を感じていた様子だった。本実践で防災の意識がより高まった生徒は、地域の防災訓練にも参加し、さらに体験するなどして学びを深めていた。今後も、防災への意識を継続し、いざというときに的確な判断をし、地域ためにも動いていける人になってほしい。